FUJITRANS CORPORATION
SUSTAINABILITY REPORT
2024

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

ノンVOC(Volatile Organic Compounds)**インキ**
大豆油インキの比率をほぼ100%に高めたもの。大気中への有機化合物の揮発はほとんどありません。

FSC®認証用紙
この印刷物には、FSC®認証用紙が使用されています。

Waterless
印刷時に有害な廃液がでない「水無し印刷」で印刷しています。

フジトランス コーポレーション

本社
〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
TEL:052-653-3111(代)　FAX:052-652-7110
https://www.fujitrans.co.jp/

2024年6月発行

FUJITRANS CORPORATION
SUSTAINABILITY REPORT
2024

目 次 Contents

SUSTAINABILITY REPORT 2024

03 会社概要
事業所一覧
05 企業理念
フジトランス サステナビリティ ビジョン2050
推進体制
06 事業ハイライト

07 社 会
安全・品質
方 針
推進体制
安全作業に向けた取り組み
09 健康
方 針
具体的な取り組み
10 社会貢献

11 環 境
方 針
環境マネジメントシステム
環境保護の実践
環境データ

編集方針

「フジトランス サステナビリティ レポート」は、
フジトランスグループのサステナビリティに対する考え方や取り組み内容をまとめた資料です。
事業に直接関連する内容のほか、SDGsやCSRに関する内容も網羅しています。

Webサイト「フジトランス コーポレーション SDGs」 https://www.fujitrans.co.jp/csr/ ▶

対象期間	2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日） 一部、前年度から連続する活動内容などを含む
報告サイクル	年次報告として毎年発行
発 行	2024年6月（前回：2023年6月）
報告範囲	株式会社フジトランス コーポレーションおよびグループ会社の取り組み
お問い合わせ先	株式会社フジトランス コーポレーション サステナビリティ推進室 〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号

Top message

2021年に当社グループのサステナビリティ方針「フジトランス サステナビリティ ビジョン2050」を策定して、今年で4年目になります。策定当時と比べると、SDGsやサステナビリティという言葉をさまざまな場所で耳にするようになり、以前よりも社会に浸透してきていると感じます。

カーボンニュートラルを目指して

当社の主要事業である港湾運送業界や内航海運業界でも、サステナビリティを起点とした取り組みが活発化しています。日本政府が掲げている2050年のカーボンニュートラル達成という方針に向けて国土交通省がカーボンニュートラルポート（CNP）の形成を推進し、2024年3月末時点で、全国69港で港湾脱炭素化推進協議会が設置されました。

当社も、本社が所在する名古屋港の港湾脱炭素化推進事業の一翼を担っており、二つの計画を推進中です。一つは省エネ代替船の建造で、現在就航中の内航RO/RO船を代替建造するのに合わせて省エネ性能を向上させ、燃料消費量の低減を図ります。2024年5月に就航した新「ふがく丸」は、先代の同名船と比較してCO_2排出量を約30%少なくできる見込みです。また、当社船では初めて船内に陸上電力受電設備を備えており、将来的には船内の発電機を停止することで着岸中のゼロエミッションを構想しています。

もう一つはFC換装型RTG（タイヤ式門型クレーン）の導入で、導入時は従来のハイブリッドRTGより約20～30%燃費性能を向上させた小型のディーゼルエンジンで駆動しますが、将来、水素燃料の供給インフラが整備された場合、ディーゼルエンジンを水素燃料電池電源装置に換装できる仕組みです。これらの計画により、CO_2排出量の大幅な削減を目指してまいります。

また、当社の強みである内航RO/RO船による海上輸送は、同じ距離を輸送する場合のCO_2排出量がトラックによる陸上輸送と比較して約5分の1で、環境にやさしい輸送手段です。当社は、北は北海道から南は沖縄までサービス航路を張り巡らせておりますので、海上輸送へのモーダルシフトがより進めば、お客さまの輸送に占めるCO_2排出量の削減に寄与します。

しかし、こうした取り組みを重ねても技術的な課題が未だ多く、カーボンニュートラルの実現にはまだまだ時間を要するでしょう。規制や法令、商習慣など、当社だけでは乗り越えられない壁も多々あります。こうした問題を少しでも早く、一つでも多く解決するために、お取引先さまをはじめ多くのステークホルダーと共に挑み、物流の新しい在り方を共に創りあげたいと考えております。

社員の健康と働きがいを向上

社員の健康と雇用の安定を図り、労働生産性を向上させることも事業継続にとって重要な要素です。いわゆる「物流の2024年問題」では主にトラックドライバー不足によって輸送能力が減少すると言われていますが、働き手不足の問題は港湾労働者や船員などあらゆる分野に波及しています。

そうした状況を踏まえ、業務プロセスを刷新し、働き方を改善することを目的の一つとして、2023年度にDX（デジタル・トランスフォーメーション）方針を策定しました。各事業本部とグループ会社がそれぞれ課題を設定し、IT技術を駆使して業務改善と課題解決に取り組んでいます。

また、2024年3月には健康経営優良法人の認証を取得しました。社是「『和』の精神」のもと、社員一人一人が心身ともに健康で、働きがいのある活気あふれる職場づくりを推進します。

企業が社会に価値を提供し続け、成長するために、サステナビリティは欠かせない視点になってきました。社会全体がより良い方向に向かうために、今後も皆さまと手を携えて取り組んでまいります。

代表取締役社長
系井辰夫

会社概要 Company profile

（2024年3月末時点）

当社は1952年に名古屋市港区で創業した創造的総合物流企業です。港湾運送事業・内航海運業を中心に海上・陸上・航空輸送、保管・在庫管理、梱包、通関など物流に関わるあらゆる事業を展開しています。特徴は、内航船舶を運航する船会社としての側面を持っている点です。

設立当初は、木材の荷役を中心とする港湾運送会社でした。1960年代、モータリゼーションによる物流需要の増大を的確にとらえ、1962年に我が国初の自動車専用RO/RO船「東朝丸（とうちょうまる）」を就航させることで内航海運業に進出。完成車の国内輸送分野で成長し、現在の基盤を確固たるものにしました。今日、北海道から沖縄まで国内に17ヵ所の支店・出張所を有し、海陸一貫で車両・一般貨物輸送を行っています。

一方、輸出入の取扱い範囲とサービスの拡大のため、積極的に海外展開に取り組んできました。1977年、シンガポールで駐在員事務所を立ち上げて以降、フォワーディング業務、船舶代理店業、倉庫業、梱包事業、陸上輸送などへ業容を拡大してきました。現在では北米、欧州、東・東南アジアに法人を置き、物流ネットワークを展開しています。

これら国内外のネットワークを駆使して、完成車（乗用車、農機、建機など）や自動車部品を中心に、農産品、衣料品、化学品、非鉄金属、木材チップなど、さまざまな貨物を取り扱っています。また、長大貨物の輸送にも精通しており、宇宙関連機器や航空機部材、プラントなど豊富な輸送実績があります。

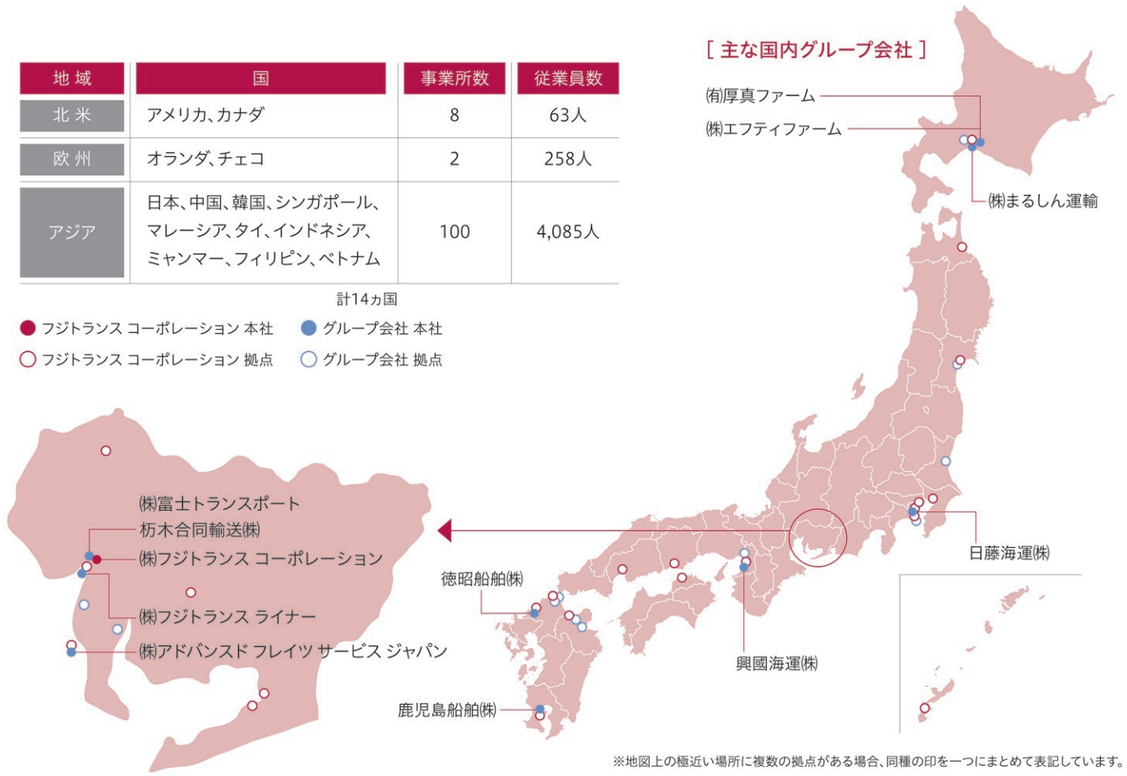
名　称	株式会社フジトランス コーポレーション（FUJITRANS CORPORATION）
本社所在地	〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
設立年月日	1952（昭和27）年9月29日
資本金	2億円
代表者	代表取締役社長　系井　辰夫

主たる営業種目	港湾運送事業、内航海運業、貨物利用運送事業、航空運送代理店業、通関業、倉庫業、梱包事業、海上運送業　他
従業員数	（単体）1,332人／（グループ）4,406人
連結子会社数	34社（2023年度）

事業所一覧

地 域	国	事業所数	従業員数
北 米	アメリカ、カナダ	8	63人
欧 州	オランダ、チェコ	2	258人
アジア	日本、中国、韓国、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ミャンマー、フィリピン、ベトナム	100	4,085人
計14ヵ国			

● フジトランス コーポレーション 本社　● グループ会社 本社
○ フジトランス コーポレーション 拠点　○ グループ会社 拠点



※地図上の極近い場所に複数の拠点がある場合、同種の印を一つにまとめて表記しています。

企業理念

フジトランスグループは、国連が推進するSDGsの考えに賛同し、持続可能な社会の形成に貢献するため、経営理念に基づいて注力すべき重要課題を4つに絞り込みました。そして、これらを長期方針「フジトランス サステナビリティ ビジョン2050」としてまとめ、2050年を目標達成年としました。当社グループが社会・環境と共に持続的に成長・発展していくための指針です。

[経営理念]

1. 誠実で公正な企業活動を通じ、社会から信頼される企業を目指す。
2. 安全で高品質な物流システムの開発に努め、お客さまに魅力あるサービスを提供する。
3. つねに経営の革新に努め、あらゆる分野へ挑戦し、持続的に発展成長する。
4. 地球に感謝し、環境にやさしい活動を実施し、社会・地域に貢献する。
5. 相互信頼、共通認識を基本とし、社員とその家庭に安らぎを与える企業風土をつくる。

フジトランス サステナビリティ ビジョン2050

マテリアリティ	脱炭素社会の実現	環境保全と資源の循環利用の最大化	健康経営による働き方改革の促進	SDGs関連の新たな収益モデルの確立
社会・当社の課題	●GHGの把握と削減	●森林や海洋の環境の保全	●働きがいのある職場の確保 ●多様な働き方への配慮 ●安定的な雇用の維持	●事業による社会課題の解決
主な施策	●次世代燃料への対応 ●再生可能エネルギーの積極利用	●海洋・森林を含む環境の保全 ●廃棄物の削減 ●再資源化製品の積極使用	●健康経営優良法人の取得・維持 ●DXによる業務効率の改善 ●社員エンゲージメントの向上	●社会課題解決に向けた新たなビジネスの創造

推進体制

社会的に関心が高まるSDGsをグループ共通の課題と捉え、対応するために、グループの経営者で構成する「サステナビリティ推進会議」を定期的に開催しています。サステナビリティに関するさまざまな情報を共有し、取り組みを協議しています。

事業ハイライト（2023年度）

2023年 10月　新造船 命名・進水

㈱フジトランス コーポレーションは、山口県下関市の三菱造船㈱で内航RO/RO船「ふがく丸」の命名・進水式を行いました。この船は、フジトランスグループが持続可能な社会の形成に貢献するために策定した長期方針「フジトランス サステナビリティ ビジョン 2050」のもと、カーボンニュートラルに向けた「環境にやさしい船」として建造されました。船体サイズの大型化や構造の工夫によって積載能力を向上しながらも、CO_2 排出量は先代の同名船と比較して約30%削減できる見込みです。

また、8層ある艙内のうち一般貨物用のトレーラー区画では、支柱を無くすことで荷役効率の向上を図っています。

2024年 1月　北海道支店 新事務所竣工

北海道支店の事務所を建て替えました。

2024年 2月　FUJITRANS LOGISTICS PHILIPPINES, INC. マカティ支店開設

FUJITRANS LOGISTICS PHILIPPINES, INC.が、人材確保や営業強化を目的として首都マニラ圏内にマカティ支店を開設しました。

2024年 2月　DX方針 策定

中期経営計画「フジトランス2030」を達成する手段の一つとして、グループ全体でDXに取り組むための方針を策定しました。

2024年 3月　健康経営優良法人 認定

㈱フジトランス コーポレーションが「健康経営優良法人認定制度」の中小規模法人部門で健康経営優良法人に認定されました。

社会 Society

基本的な考え方 フジトランスグループは、物流事業を通じて社会のインフラとしての役割を担います。

安全・品質

方針

労働安全衛生方針

株式会社フジトランス コーポレーションは、労働安全衛生活動の確実な実施が、企業経営の基盤であることを認識し、働く人すべての安全と健康の確保を推進し実践する。
当社は、以下の事項を実施することを宣言する。

1.働く人の負傷および疾病を防止し、安全で健康的な職場を提供する。
(1)すべての職場でリスクアセスメントを実施し、労働安全衛生リスクの除去または低減に努める。
(2)ストレスチェックの結果を活用し、働く人の健康障害防止と職場環境の改善を図る。
(3)働く人との協議および参加を図り、良好なコミュニケーションのもと、全員参加の労働安全衛生活動を実践する。
2.労働安全衛生リスクおよび労働安全衛生機会への影響を評価し、重要な項目については、技術的かつ経済的に可能な範囲で目標を定める。
3.労働安全衛生関係法令、社内基準およびその他の要求事項を遵守し、より一層の労働安全衛生管理レベルの向上に努める。
4.労働安全衛生マネジメントシステムを確実かつ適切に実施し、社員の蓄積された知識と技能を織り込み、継続的な安全衛生水準の向上を目指す。

品質方針

1.お客さまよりお預かりした、大切な軽量貨物から航空宇宙機器までを総合輸送(陸上・海上・航空)するプロ集団企業として、更なるIT化を図り、お客さまのニーズに適したロジスティクスサービスを提供する。
2.お客さまとの合意事項およびISOの規格並びに法令・協定等の要求事項を遵守して、誠実で公正な企業倫理に基づいた事業活動を展開する。
3.品質活動を有効に推進するために、自主的な物流システムの改善計画を策定し、継続的かつ発展的な維持を図る。
4.品質並びに安全・環境への徹底した配慮を業務遂行の基本とし、社員全員の知識と技能を向上させるために、適切な教育を実施して啓発を図る。
5.フジトランスグループおよび協力会社と共通認識のもと、お客さまとの良きパートナーシップを通じて、相互コミュニケーションを図り、お客さまと共にグローバルな視点で輸送の明日を構築する。
6.重点項目目標 『 安全を優先し、人身・物損事故、納入遅延、誤出荷 ゼロ件 』

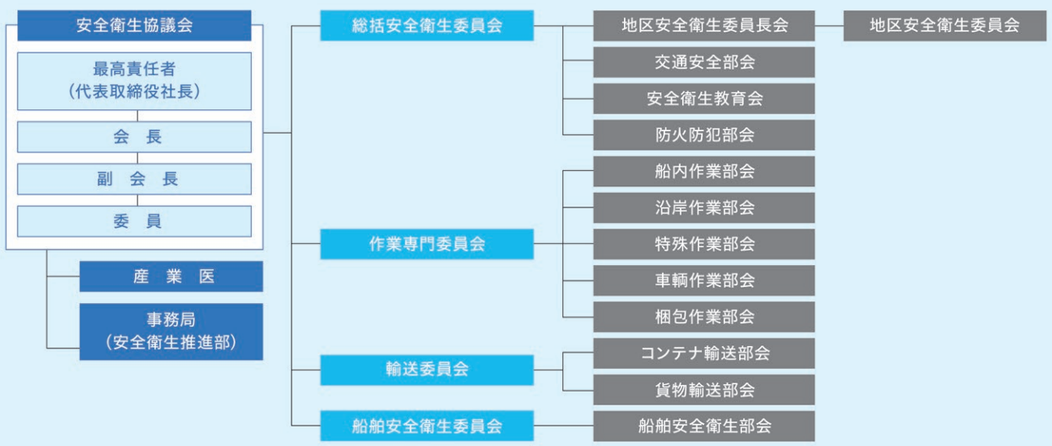
船舶安全運航方針

1.海上輸送に関わる関係法令等の遵守、および自社で定めた安全管理規程の遵守を徹底する。
2.海上輸送に携わる社会的責任を認識し、海陸が一体となって安全最優先の原則を徹底する。
3.船舶運航の安全管理体制を適切に維持管理すると共に、継続的な改善の実施により、更なる安全運航を目指す。
4.安全運航に関する教育および訓練の実施により、海陸の安全意識の向上を図るとともに、適切な危機管理を推進する。
5.安全・安心で環境に優しい海上輸送サービスの提供を目指し、日頃から積極的な安全活動の推進および環境負荷の低減に取り組む。

推進体制

安全は、総合物流企業としての重大な使命です。そして、安全の徹底はお客さまからの信頼につながり、事業全体の品質を高めることに通じます。当社では「安全」と「品質」は一体と考え、安全衛生協議会を頂点とした強固な管理体制を構築し、徹底した安全管理に取り組んでいます。

[フジトランス安全衛生管理体制]



安全作業に向けた取り組み

安全輸送強化キャンペーン

輸送中の事故や災害を未然に防止するため、輸送委員会と安全衛生推進部が連携し、安全輸送強化キャンペーンを行っています。輸送委員会はコンテナ輸送部会と貨物輸送部会の2つから成り、主に陸上輸送における安全を管理しています。キャンペーン期間中には、基本動作や現場ごとの導線、トレーラーの安全点検、災害防止対策を周知しました。また、役員を交えて各現場をパトロールし、安全輸送が徹底されているか確認しました。

トレーラーの輪留め確認

貨物輸送部会 船内パトロール

熱中症予防キャンペーン

毎年5月から9月までの間、「熱中症予防キャンペーン」を実施しています。このキャンペーンは、熱中症の症状を理解し、予防と有事に備えた活動を浸透させる取り組みです。

各事業所では、啓発ポスターの掲示や熱中症予防に関する映像教材を使った教育で社員に注意を促しています。また、経口補水液や瞬間冷却剤などの熱中症予防グッズを配付しています。

「ゼロ災」キャンペーン

安全衛生協議会主催で、全国の事業所を対象とした「『ゼロ災』キャンペーン」を年2回行っています。「全ての事故ゼロ」を目標に従業員一人一人の安全意識を高め、安全で安心な職場づくりを目的とした全社員参加の活動です。キャンペーン中は、経営トップ層による現場点検や各専門委員会によるパトロールを行いました。

また、上期キャンペーンの際は酷暑激励、下期キャンペーンの際は寒冷時激励のため、役員が各拠点を回り、作業者を労いました。

安全作業指導管理者によるゼロ災唱和(発会式)

2023年度安全標語

伝える心と 聴く心 相互理解で創る 安全安心職場

上期スローガン

意識が変われば 現場が変わる。
みんなで変えよう 現場の安全

下期スローガン

小さなヒヤリは危険の合図 今すぐ改善 ゼロ災職場

安全パトロール(九号地分室)

トラックドライバー 安全教育

陸上輸送を担う㈱フジトランス ライナーは年1回、自社と協力会社の乗務員を対象に愛知県トラック協会の安全研修を受講しています。研修では、改正内容を含む道路交通法や車両の特性、死角の範囲などを確認し、過去の事故事例をふまえて教育します。教習コースでは、講師が添乗して実技講習を受けます。

また、ドライブレコーダーの映像を見て参加者が危険に対する着目点について意見交換するなど、乗務員が自らの安全意識を見直す良い機会となっています。

障害物を設定したスラローム走行

フォークリフト安全運転強化キャンペーン

毎年、作業専門委員会主催で「フォークリフト安全運転強化キャンペーン」を行っています。フォークリフト作業従事者が安全運転の重要性を再確認することが目的です。期間中は各拠点にポスターを掲示し、安全運転を促しています。

また、技能向上を図るため、フォークリフト作業従事者が参加する技能競技会を行います。各職域の代表者が指定されたコースを運転し、安全装具の着用、事前確認の徹底、作業の正確性などを競い、役員が審査しました。

指定のコースで技術を披露

酸素欠乏症防止キャンペーン

木材チップ専用船でリスクがある酸素欠乏症の防止と対策の徹底を目的に、酸素欠乏症防止キャンペーンを実施しています。

活動の一環として、作業前の酸素濃度測定記録の確認、映像教材による教育や空気呼吸器の着脱訓練、救命器具の点検を行いました。また、木材チップ作業に従事する作業者が艙内で被災したという想定で救出訓練を行いました。マネキンを被災者に見立て、発見から救出、救命箱を使って船から岸壁までの搬送、心肺蘇生、救急車への搬送まで一連の流れと役割を確認しました。

健 康

社員が心身ともに健康であることは、事業を続ける上で重要です。そのため、労働安全衛生法を遵守して社員が生き生きと働けるよう安全な職場づくりに励んでいます。また、定期的に健康状態を把握するとともに、健康に関する情報を得られる場を社員に提供しています。

方針

健康経営宣言 ―社会のエッセンシャル企業として―

企業経営の基盤となる社員の健康を守ることは、企業の持続的な活動、発展の原動力です。
当社は社是である「『和』の精神」に基づき組織全体で、社員一人一人が心身ともに健康で、働きがいのある活気あふれる職場づくりを推進し、社員とその家庭に安心を与え、社会・地域に貢献する企業を目指します。

具体的な取り組み

健康経営を推進

企業経営の基盤である社員の健康を守るため、2023年4月に健康経営宣言を公表しました。また、健康保険組合連合会　愛知連合会の健康宣言事業に参加し、健康宣言チャレンジ事務所として認定されました。

2024年3月には、経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人認定制度」の中小規模法人部門で健康経営優良法人に認定されました。

健康経営優良法人
Health and productivity

健康相談会・健康セミナー

社員が健康で生き生きと働くことができるように、個別健康相談の機会を設けています。健康診断の結果を踏まえて保健師に相談できるようになっています。

保健師による健康セミナーも定期的に催しています。2023年度は「『がんと生活習慣』～予防と早期発見～」、「職場における健康課題～プレゼンティズムとは～」、「『転ばぬ先の杖』～体力測定で知ろう！自分の身体年齢～」をテーマに、本社地区の各事業所で行いました。

また、女性社員向けに「働く女性の健康セミナー」を初めて開催し、社外講師に講演していただきました。

ストレスチェック

年に一度、全社員に対してストレスチェックを行っています。ストレスチェックは、心理的な負担の程度を把握するための検査で、労働安全衛生法で実施が義務付けられています。受検結果は心身のストレス反応、仕事のストレス要因、周囲のサポートの3つの領域で集計・数値化され、傾向の詳細とアドバイスを合わせて受検者本人に返されます。

2023年度は、全体の79.4%が受検しました。社員は、受検結果を確認し、自身の状態を把握するきっかけにしました。

社会貢献

フジトランスグループは経営理念に「社会・地域に貢献する」ことを明記し、創業間もない頃からステークホルダーと連携して社会貢献に励んできました。その活動は、SDGsが定める17の目標とも合致します。

交通安全街頭立ち会い

交通安全部会が主体となって、交通事故ゼロの日（0が付く日）に交通街頭立ち会いを行っています。朝の通勤時間に、本社事務所周辺の交差点で社員が幟を持ち、シートベルトの着用や交差点での一旦停止など交通ルールの徹底をドライバーや歩行者に呼びかけています。

また、内閣府や警察庁、各自治体が主体となって9月21日から30日まで行われた「秋の全国交通安全運動」に賛同し、9月26日に街頭立ち会いを行いました。役員も参加し、本社地区、金城地区、九号地地区の3カ所に分かれて交通安全を呼びかけました。

交通安全を呼びかける社員

リレー・フォー・ライフの支援

まるしん運輸㈱は毎年、苫小牧市で行われているチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパンとまこまい」を支援しています。

「リレー・フォー・ライフ」は、がん患者とそのご家族を支援する活動で、世界約34カ国、約2,460カ所で開催されています。日本では2006年に開催されるようになり、苫小牧市では2016年から行われています。

まるしん運輸㈱は、苫小牧開催当初から毎年協賛しています。2023年7月22日に開催された際も、所有するトレーラーシャーシを会場内のステージとして提供したほか、昇降設備の設営に協力しました。

ステージ用にトレーラーを設置

児童福祉施設支援

毎年12月に、名古屋市内の計6カ所の児童福祉施設にクリスマスケーキなどを寄贈しています。施設が行うクリスマス会に役立てていただくため、ケーキやプリン、パンなどをお贈りしました。

施設関係者や児童らから後日、多くのお礼のお言葉をいただきました。

被災地支援

2023年8月にアメリカ ハワイ州マウイ島で発生した大規模火災で被災された方の救援や生活復興のため、救援金を寄付しました。

また、2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災地支援のため、会社からの義援金と社員からの募金を日本赤十字社を通じて寄付しました。

環境 Environment

基本的な考え方

フジトランスグループは、経営理念に定めた「環境にやさしい活動」を体現するための指針として環境方針を策定し、事業活動を行う地域や海洋環境への負荷の低減、生物多様性の保護に努めています。

方針

環境方針

1.事業活動に関係する会社と協調し、省資源・省エネルギーおよび廃棄物の抑制を図り、環境汚染の予防に努める。
2.環境に関する法規・協定、その他の合意事項の遵守はもとより、必要に応じて自主基準を定め、環境保全を推進する。
3.目的・目標を設定し、取り組み結果を見直すことにより、環境に関する社内システムの維持・継続的改善に努める。
4.環境教育・広報活動を実施し、全社員への環境方針の周知と環境に関する意識向上を図る。
5.地域社会との対話を大切にし、地域における環境保全活動を積極的に展開する。

環境マネジメントシステム

環境方針に基づいて、事業所や船舶の一部でISO14001環境認証を取得しています。毎年、内部監査および外部審査を行い、マネジメントシステムが適正に機能していることを確認しています。

[ISO14001 認証取得サイト一覧]

会 社	事業所・所有船舶
㈱フジトランス コーポレーション	• 本社 • 九号地分室 • 金城オペレーションセンター • 空見荷扱所 • 金城荷扱所 • 豊橋支店 • RO／RO船「ふじき」 • RO／RO船「ふがく丸」 • RO／RO船「蓉翔丸」 • RO／RO船「清和丸」
鹿児島船舶㈱	名古屋事務所

環境保全の実践

干潟の清掃

サステナビリティ推進室員、新入社員ジェネラリスト、ボランティア参加の社員が、愛知県の藤前干潟で開催された清掃イベント「藤前干潟クリーン大作戦」に参加しました。

藤前干潟は伊勢湾の最奥部にあり、当社事業所が多数立地する名古屋市港区と飛島村にまたがっています。日本有数の渡り鳥の飛来地としてラムサール条約（※）と国指定鳥獣保護区に登録されています。しかし、大量のごみが河川や海から流れ着くため、市民団体を中心に清掃活動が行われています。

清掃した範囲には、漂着したとみられるペットボトルやビニール袋などのほか、ソファやタイヤなどの粗大ごみが投棄されていました。また、地面の表層にはマイクロプラスチックが大量に混ざっていて、全て回収するのは困難な状態でした。

※ラムサール条約：正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。地下水系、浅海を含む広範な対象の湿地を対象に、保全と適正な利用を図ることを目的としている。

清掃に参加した社員

フィリピン海岸清掃

フィリピン法人 FUJITRANS LOGISTICS PHILIPPINES, INC.の社員がCoastal Cleanup Driveに参加し、カヴィテ州タンザ市の海岸を清掃しました。

このイベントは国際的な海洋環境保護活動のひとつであるINTERNATIONAL COASTAL CLEANUP DAYに合わせてフィリピン各地の海岸で行われました。マニラ湾の南に位置するタンザ市の海岸は、マニラ湾からごみが台風などによって流されてくるため、例年多くのごみが堆積する場所です。社員らは海岸に散乱するごみを協力して集めました。

社会貢献のために多くのスタッフが参加

市内の植樹活動へ参加

本社が所在する名古屋市が行う環境活動「なごやグリーンウェイブ2023 市内一斉植樹」に参加しました。これは、森林や樹木との触れ合いを通して生物多様性の大切さを考える活動です。参加企業や法人に苗木を提供し、国際生物多様性の日である5月22日に一斉に植樹を行いました。当社は、アジサイの苗木を3本受領し、本社敷地内の花壇に植えました。

花芽をつけたアジサイ

グリーンオリエンテーション

SGEC
SGEC/31-22-1211

当社事業の柱の一つである内航海運業にとって、海は重要な事業フィールドです。そして、その海に栄養分を供給する河川の上流にある山林もまた、当社にとって大切な環境だと考えています。そうした森林を健全に保ち、生物多様性を保全するため、当社は北海道共和町に177haの森林を所有しています。

当社のマスコットキャラクターの愛称から「フジップの森」と名付けられたこの森は、取得時点で樹木の薄い場所が含まれていました。そのため、二酸化炭素の吸収源となることを期待して人工林を整備し、天然林と併存させています。2022年には、地元森林組合と連携して持続可能な森林として保全していることから、国際的な森林認証制度「SGEC」の認証を取得しました。

また、この森は新入社員の環境教育の場としても活用しています。地元振興局の協力のもと、森林教育や森林の管理をお願いしている地元森林組合の方に指導していただき、植樹や除伐の体験を行っています。

作業を終えた参加者

再生可能エネルギー由来の電気を使用

CO_2排出量の削減のため、一部の事業所を除き、使用する電気を再生可能エネルギー由来の電力に切り替えました。

GHGプロトコルにおいて、他社が発電した電気を使用すると、使用者がScope 2で間接的にCO_2を排出したことになります。CO_2排出係数は発電方法によって異なり、化石燃料を燃やす一般的な火力発電の場合、排出係数が高くなります。

そこで、発電時にCO_2を排出しない再生可能エネルギー由来の電気を使用することでScope 2の排出量を削減しました。

ISO周辺美化活動

ISO14001（環境）の環境美化活動の一環で、事務所周辺を清掃しています。各拠点に勤務する部署から参加者を募り、落ちているごみを拾い集めています。

本社の夏季の活動では、近隣で毎年開催される「海の日名古屋みなと祭」の後に普段よりたくさんのごみが散乱することから、祭りの翌日に清掃を行いました。当社以外の近隣企業も同様に清掃を行っていたため、連携して実施しました。

約1時間で大量のごみを収集

足船を利用した水面清掃

名古屋港内で現場間の移動に使うボート（足船）に乗り、水面を漂うごみを回収しました。

実施した9月26日は、1959年に伊勢湾台風が本州に上陸した日です。名古屋港も甚大な被害を受け、特に海面貯木場から陸地に大量の木材が流出したことで、被害が大きくなりました。その際、当社は木材の撤去に奔走したことで地域の信頼を得たことから、毎年この日に水面清掃を行うようになりました。

各本部の代表者が本社事務所にほど近い名古屋港ガーデンふ頭、自社内航船舶の拠点である潮見ふ頭のQ2・BQ・BQ2岸壁、ガーデンふ頭に注ぐ堀川の下流域をボートで巡り、浮遊するごみをタモ網で集めました。

自社岸壁付近でごみを回収

運河の水質改善

環境保全活動の一環として、㈱フジトランス コーポレーション 本社近隣の「一・二号地間運河」で、使用済みの使い捨てカイロを活用した水質改善活動を行っています。

この活動は、東京海洋大学 佐々木 剛教授の研究論文を基にした当社・トヨフジ海運㈱・東京海洋大学の共同研究です。使い捨てカイロを水質浄化剤として再利用し、そこから溶出する鉄イオンが悪臭の元の一つである硫化水素と反応して硫化鉄になると、悪臭が減少します。また、水底に溜まったヘドロと反応して分解が進み、有機物として利用する生物の増加が期待できます。

当社とトヨフジ海運㈱ の各現場で冬季に使用した使い捨てカイロを回収し、内容物を団子状に固めた水質浄化剤を運河内に設置して、水質、底質、生物相の変化を定期的に調査しています。2023年度はナガアオサやアメフラシなど、以前は見られなかった植物・生物が観察できるようになりました。

また、11月には名古屋市熱田区の宮の渡しで、名古屋商工会議所が水辺の活用を目的に行った水中調査トライアルに参加しました。水辺の環境向上と水質改善に使い捨てカイロを活用した手法が有用であることを説明しました。

卵塊も観察できたアメフラシ

カーボンオフセットクレジット 調達

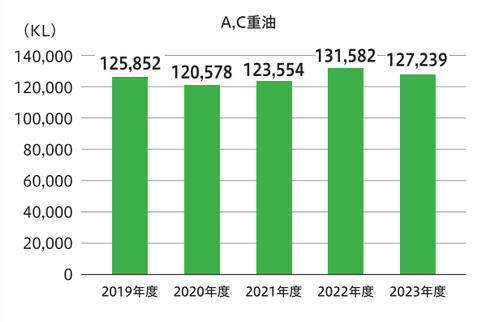
国際社会が協調して取り組むカーボンニュートラルの取り組みは、官民を問わずさまざまな形で進められています。自社内航船舶の運航などによりCO_2を排出する当社もまた、例外ではありません。しかし、CO_2の排出量を大幅に削減する手段として期待されているエネルギーの転換は、技術的な課題が多く容易ではありません。

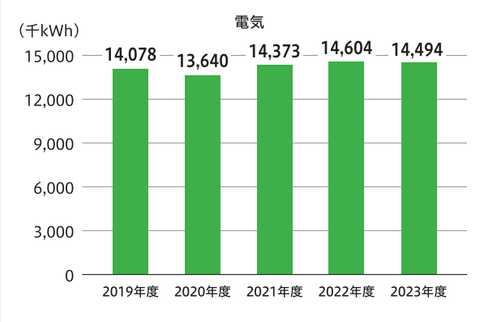
そこで当社は、CO_2の相殺のため、カーボンオフセットクレジットを調達しています。調達するクレジットは、基本的に森林由来のものです。河川を通じて海につながる森林を間伐などで適切に整備することによってCO_2の吸収を促すとともに、林業の支援も意識しています。

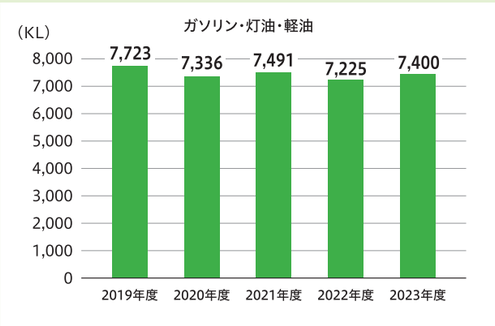
環境データ（2024年3月末時点）

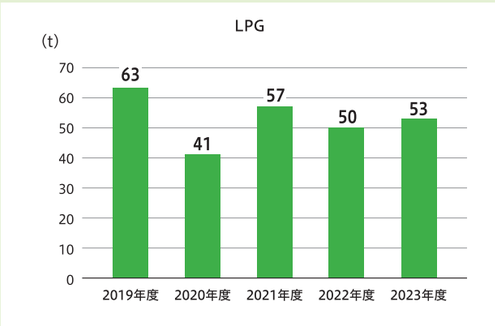
環境方針に基づいて各種施策を実践するにあたり、現状と施策の進捗状況を把握するため、環境負荷データを調査・管理しています。本社のほか、国内・海外の関連会社を対象に、主にエネルギー使用量を可視化しています。（対象関連会社　国内：14社、海外：12社）

エネルギー消費量

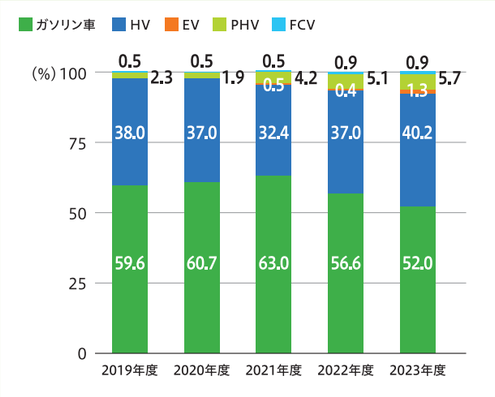




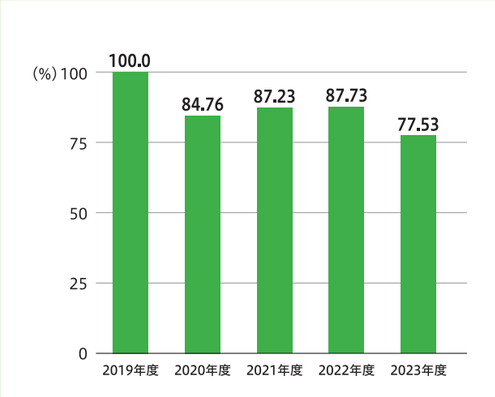




パワートレイン別　社用車台数比率（㈱フジトランス コーポレーション単体）



印刷枚数（㈱フジトランス コーポレーション単体）（2019年度を100とした比率）



※構成比率は小数第2位を四捨五入しているので、合計は100にならないことがあります。